

## 国語部会

### <県研究主題>

児童一人ひとりの言語活動を充実させ、「伝え合う力」の育成を重視した学習指導と評価の工夫・改善

### 提案1

提案者 大森 有希（相模原地区）

### <研究主題>

「書く」力を高める言語活動の工夫

— 身近な人の紹介文を書く活動を通して —

### 1 提案内容

国語の学習の中で、「書く」という活動を充実させ、子どもたち一人ひとりの表現力を高める学習指導の工夫について追究していきたいと考えた。子どもたちは学年が上がるにつれ、書くことが苦手な児童も増えてくるので、低学年で書き方を学ぶことで「書けそう」という見通しや「書けた」という満足感を味わうことが、書くことの楽しさを実感させたいと取り組んだ。

#### (1) 実践内容について（提案資料参照）

- ① 「書くこと」における年間の指導計画の作成
- ② 日常的な言語活動
- ③ 授業実践の中で研究テーマに迫る手立て

#### (2) 成果（○）と課題（●）

- 子どもにとって魅力のある活動になり、いきいき活動できた。
- 色分けカードの活用により、子どもの思考過程に生かされ、有効的であった。
- ICTの活用により時間短縮になり、また、共通認識や理解の幅を広げるのに有効だった。
- 「書くこと」への関心・意欲が高まった。
- 交流後の指導の工夫として、感想の視点や推敲の観点を明確にする必要があった。

### 2 協議内容

#### (1) 二次 友だち紹介、三次 先生ガイドについて

- Q 「書く力」をつけるための実践のため、書く子の思いを大切に子どもが紹介したい相手を選んだらどうか？
- A 一人の子に集中しないよう、全員が紹介されるようにしたかった。思いを大切にする実践としては、三次の活動の先生ガイドで、書きたい先生を選んだ。
- Q 授業の実践として展開の仕方は、友達も先生もではなく、友達ガイドで通したら？
- A 友達ガイドをやった後、先生ガイドをしたことで相手意識をもってアレンジを加えていた。

#### (2) 日常の活動や朝学習での取組、学年を超えた取組、学校全体としての取組について

- Q 毎日の日記指導は、どんな時間にどのくらいの時間を？
- A 1年生では国語の授業（5～10分）、3学期には給食の終わりや5時間目のはじめなど。2年生では隙間時間に、3年生では、書く量が増えるが休み時間も自主的に書いている。今週のニュースは毎週木曜の朝10分。子どもが慣れてくると、5分スピーチ、5分交流。
- Q 学年を超えた、学校全体の取組なのか？
- A 学年全体で取り組んでいる。「元気な一日」は、低学年で継続的に取り組んでいる。

(3) 子どもたちにつけたい力、そのための手立てについて

Q 一次、二次で子どもたちがどのような力を意識していたのか？

A 教師としては組み立てシートの活用で構成を意識させたが、子ども達はふり返っていない。

Q 見直しチェックシートについて

A 資料P15の書き方のポイントを参照に作成したチェックシートとした。

Q 特に子どもにとってよかったと思う支援は？

A 構成をとらえる上で、色分けカードがよかった。視覚でとらえられてモデル文も教材文も同じ色に統一したので、子どもに定着した。

### 3 助言

(1) 「書く力」をつける授業づくりについて

- ・低学年でどうすれば身につけられ、どう積み重ねて6年間で身につけていくかを考える。
- ・①つけたい力、②言語活動の充実、③単元を貫く言語活動、④子どもの思い、を大切に  
にする。

(2) 授業実践について

- ・つけたい力を単元の中で「書く力」の構成に絞ったので、よかった。そのための手立てとして、色別カードを活用した。一次のモデル文、二次の教材文・ワークシート、三次のワークシートで活用し、子どもへの定着と子どもの見通しにつながり、有効だった。二次から三次へは、単元を貫く言語活動であり、子ども自身が活動をふり返ることができてよかった。
- ・取材や構成メモの段階、スモールステップで推敲に取り組むと、子どもが自分の文を見直すきっかけとなり、よい。ペア・グループ・ICTによる全体などいろいろな形態が効果的であった。

## 提案2

提案者 木村 信太郎(湘南三浦)

<研究主題>

“書く活動”で学習内容を視覚化，構造化，客観化

思考を深め表現する子を育てる国語授業

### 1 提案内容

物語文の読みを深める手段として“書く活動”を土台として取り入れた。自分の考えを深め、全体の話し合いの場で自信を持って発言できるように、ノートを思考の基地とした。また、国語の授業の中で年間を通して段階的に力をはぐくむようにした。

(1) 「書く活動」について

- 「書く活動」は個人思考を保証するために行う。
- 「書く活動」を通して、思考を積み重ねていく。
- 思考の過程が見えるノート作りをするために次のような手立てを行った。
  - ・どのくらい書くのか子どもに見通しを持たせる。
  - ・自分の考えと今日の学習で考えたことを分けて書く。
  - ・モデルの文と手引きの言葉で、思考の視点を示す。
  - ・ふりかえりを行い、自分の学習課程とその変化を確認する。
- メモの取り方についても指導する。

## (2) 「海の命」実践報告

### ○授業実践

単元名：「海の命」と「命についての読書」を通して“いのち観交流会”をしよう

- ・「海の命」を読む活動と並行して立松和平の「いのち」シリーズをはじめ、さまざまな読書を行った。
- ・作品全体の構成をつかむため、中心人物を含む登場人物の人物関係図をまとめて書く活動を取り入れた。
- ・この単元を通して、「いのち」に対する考えを深めてほしいという願いがあった。

### ○授業実践を行って

- ・書き記したものは、学習のふりかえりに大変有効であった。
- ・話し合いをするときにも、自分の考えを書いたものが活用された。
- ・「いのち」に対する考えの変容も見られた。

## 2 協議内容

- ① 日常の書く活動について
- ② 多くの本を並行読書で扱った実践例について
- ③ 学習の到達点をどこに置くか。交流でよいのか、それとも自分の生き方にまで及ぶのか。
  - Q 書く活動を通して、話し合いが豊かになるということについて、児童の話し合いの様子を詳しく知りたい。
  - A 児童は、自分の思考をノートに書き、それを見ながら話している。または、ノートを元にしながら、話し合いの中で考えたことを付け加えながら話していた。
  - Q 学習課題と日々の授業実践のつながりについて
  - A 課題を学習時掲示するようにし、取り組んでいることを明確にした。
  - Q 書く活動を通して、読む領域を評価していることについて
  - A 書く活動は手段としている。書く活動を通して、読む力を評価している。
  - Q 並行読書で取り上げた図書の内容について
  - A 1 命に関わる多くの考えにふれてほしいという願いから、図書を選定した。
  - A 2 教材を通して身につけた力を生かして読める構造や内容になっている図書を選定する必要があるのではないか。
  - A 3 最後にどんな思いで子どもたちに語らせたいか、そのゴールからスタートを考えさせたい。

## 3 助言

- ・思考力を高めるにはとにかく書くことが大切である。
- ・書く活動を日常的に取り入れたことが提案実践として良かった。
- ・自分の意見の持たせ方。意見なのか、感想なのか、紹介文なのかによって変わる。
- ・実生活で使える言葉の力を児童に付けてほしい。
- ・1分間スピーチならば、300字書いて読めば適切な速さで読める内容量になる。
- ・並行読書のあり方。どのような読書を単元の中で重ねていくのか。同じ作家シリーズで読むと、本の内容がより分かりやすくなる。優れた叙述に触れさせること。
- ・命の内容で読書を重ねるならば、交流会の内容において、「いのちのつながり」についてか、「いのちのきびしさ」なのか、「いのちの美しさ」か、より具体的にさせたい。

## グループ協議

協議の柱「思考力・判断力・表現力の育成を促す『授業のしかけ』について」に沿ってグループ協議を行い、キーワードにまとめて発表し、全体で共有した。

### A：「ゴールをはっきり」

- ① 単元を通じて、一時間で何を身につけるのかを明確にする
- ② 主体的な学び（色分けカード、モデル文などの手立て）

### B：「身についた力のメタ認知の積み重ねと活用」

- ① 子どもの実態把握
- ② 六年間を見通したカリキュラム
- ③ 手立て・・・判断力は思考を促す手立て

### C：「基礎が大切，アレンジはそれから」

- ① スキルをしっかりと
- ② 系統立てて基本をしっかりと

### D：「子どもの思考を焦点化し，学びある言語活動を設定する。」

- ① 目標と手段を明確にしていく
- ② 導入が大切。最終目標を意識して
- ③ 学習過程での交流

### E：キーワード「授業作りの意識改革」

- ① 意図的な並行読書の効果

### F：キーワード「子どもたちが主体的に学ぶ授業づくり」

- ① 書くことは有効である

### G：キーワード「子どもの本音に寄り添う」

- ① 書くことにより、子ども自身も教師も確認できる

## 全体のまとめ

- 学習指導要領改訂のポイントの再確認
- メタ認知能力
  - ⇒初めに見通しを持たせ、最後に振り返る活動の中で、自らの学びを俯瞰し変容を自覚
- 日常生活に機能する国語学習
  - ⇒「書くこと」の学習で大切にしたいことは、相手意識と目的意識
- 単元名の付け方一つで、学習の見通しを持たせることができる。
  - ⇒メインタイトル：主たる言語活動から サブタイトル：指導事項から
- 発信と交流を効果的に
  - ⇒付箋を使用したり、条件設定をしたり、視点を明確にした相互評価を行ったりする。
- 第2期教育振興計画
  - ⇒「社会を生きぬく力」の養成、幼～高はその基盤としての「生きる力」の確実な育成
- 国語は言語能力を育成する教科：単元を貫くのは言語活動を通して身に付けさせるべき指導事項
  - ⇒ポイント：指導事項の理解，学習過程を課題解決的にデザイン，評価規準の具体化
- 県教委から全教員に配付された「学習評価リーフレット解説編」の活用を！
- 今求められているのは、思考・判断し、それを表現する学力